倉賀野下樋越遺跡

倉賀野交番建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群　馬　県　警　察　本　部
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

倉賀野下樋越遺跡

倉賀野交番建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群　馬　県　警　察　本　部
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

高崎警察署倉賀野町交番は、県内で最も古い木造の交番で、施設の老朽化が著しく、また、建物や敷地も狭隘であったために、ＪＲ倉賀野駅北口に移転、新築整備を行うこととなりました。これにより、駐車スペースや多目的トイレの設備など、来訪者の利便性の向上を図るとともに、国道17号の直近となる立地を活かした、周辺地域の安全と安心を守るための迅速的確な警察活動の展開が期待されています。

移転予定地の発掘調査を行いましたところ、平安時代の竪穴建物をはじめとする、古代から中・近世にかけての遺構、遺物が見つかりました。出土遺物の中には、陰刻した花文のある緑釉陶器など、竪穴建物出土品としては珍しい遺物も含まれています。

倉賀野地域には、国指定史跡浅間山古墳、大鶴巻古墳をはじめとする古墳群があって、古くから開けた土地柄であります。また、中山道と日光例幣使街道が分岐する宿場、利根川河川交通のターミナルである河岸もあって、交通の要衝でもありました。今回の発掘調査を通じて、こうした地域の特性、特徴についての理解が一層深められることになったものと存じます。郷土の歴史研究に、また、これからの地域発展のために、本書をご活用いただければ幸いです。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大なるご理解とご協力をいただきました、群馬県、群馬県警察本部、高崎市教育委員会をはじめとする関係機関、また、地元の皆様に、心から感謝を申し上げ、序といたします。

令和６年８月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　向田忠正

例　　言

1．本書は、令和５年度倉賀野交番建設事業に伴って発掘作業を実施した、倉賀野下樋越遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。整理等作業は、令和６年度倉賀野交番建設事業に伴う埋蔵文化財整理事業により実施した。
2．遺跡の所在地は下記のとおりである。
　高崎市倉賀野町33番地１地内
3．事業主体　　群馬県警察本部
4．調査主体　　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5．発掘調査の期間と体制は次のとおりである。
　調査期間　　令和５年５月１日～令和５年５月31日　　履行期間　　令和５年４月１日～令和５年７月31日
　調査担当　　主任調査研究員・調査統括　齋藤　聡
　遺跡掘削工事請負　　有限会社毛野考古学研究所　　地上測量　　アコン測量設計株式会社
6．整理事業の期間と体制は次のとおりである。
　整理期間　　令和６年４月１日～令和６年５月31日　　履行期間　　令和６年４月１日～令和６年８月31日
　整理担当　　専門調査役　洞口正史
7．本書作成の担当者は以下のとおりである。
　編集・本文執筆　　第１章・第２章・第３章第２節　洞口正史　　第３章第１節　専門調査役　神谷佳明
　デジタル編集　　主任調査研究員　齊田智彦
　遺構写真撮影　　発掘調査担当者
　遺物写真撮影　　土師器・須恵器等　洞口正史　　石器　資料１課長(総括)　関口博幸
　遺　物　観　察　　土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器　神谷佳明　　石器　関口博幸
8．発掘調査諸資料及び出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
9．発掘調査および報告書作成に際して、群馬県地域創生部、高崎市教育委員会にご協力・ご指導をいただいた。

凡　　例

1．本書で使用した座標・方位は、すべて国家座標第Ⅸ系(世界測地系)を用いた。
2．遺構挿図中に国家座標値Ｘ・Ｙ値を示したが、便宜的に下３桁のみを用いて表記することがある。
3．遺構の種別及び遺構番号は原則として発掘時に従った。
4．等高線・遺構断面図基準線等に記した数値は標高(単位：m)を表す。
5．長さ・幅・深さ及び面積については、発掘時に作成した遺構図面からの読み取り値を、１㎝・0.1㎡を最小単位として記載した。
6．遺構図および断面図の縮尺は原則として以下に従い、各挿図にスケールを添えた。調査区の全体図等及び細部にわたる表現が必要な遺構・遺物図については、遺構の形状を最も把握しやすいと思われる縮尺を採用した。同一図内に異なる縮率の図が加わる場合は、必要に応じて該当する遺物番号に続けて(　)内に縮尺を記した。
　遺構図　　竪穴建物・井戸・土坑・ピット・溝　１：60　　調査区図　　１：100・１：200

遺物図　　1：2　1：3　1：4

7．遺構の主軸方位・走行を記載する際は、座標北を基準として東に傾いた場合はN−○°−E、西に傾いた場合はN−○°−Wと表記した。

8．土層、土器の色調はともに「新版標準土色帳」の基準色および慣用名を使用することとしている。基準色、慣用名が使用されていない場合には、発掘担当者の記載に従った。

9．文中で使用した火山灰堆積物等の略称と年代・給源は次のとおりである。

As-B　浅間Bテフラ　天仁元(1108)年(浅間山)

As-C　浅間Cテフラ　3世紀末(浅間山)

As-YP　浅間板鼻黄色テフラ　15〜16.5千年前(浅間山)

10. 遺物番号は本文・挿図・表・写真図版の番号と一致する。図・写真の掲載を行っていない遺物もある。

11. 遺物写真は基本的に遺物図とおおよそ同一縮尺となるようにした。

12. 遺構図内に使用したスクリーントーン及びドットは以下を示す。また、必要に応じて図内に内容を記した。

灰　　炭化物　　土器　●

13. 遺物図内に使用したスクリーントーン及び記号は以下を示す。

緑釉　　燻　　土器ケズリの方向　⇄

14. 本書で使用した地図は以下のとおりである。

国土地理院20万分の1地勢図　「宇都宮」・「長野」　平成18年4月1日発行

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図・表・写真図版目次

第１章　倉賀野下樋越遺跡の発掘調査 ・・・・・・・・・1
　第１節　発掘調査に至る経過 ・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　発掘作業・整理等作業の経過 ・・・・・・・1
　第３節　倉賀野下樋越遺跡の位置と
　　地理的・歴史的環境 ・・・・・・2
第２章　発掘された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・5
　第１節　概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　第２節　旧石器・縄文時代～古墳時代 ・・・・・・・5
　第３節　平安時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・7
　　第１項　竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　　第２項　溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　　第３項　井戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　　第４項　土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　第５項　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　第４節　中世以後の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・21
　　第１項　溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　　第２項　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第３章　発掘調査成果の整理とまとめ ・・・・・・・・22
　第１節　竪穴建物出土土器と年代観 ・・・・・・・・22
　第２節　周辺の遺構から見た
　　竪穴建物のありかた ・・・・・・・23
遺構一覧表・遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・24

写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　倉賀野下樋越遺跡の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　倉賀野下樋越遺跡と周辺の主要遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第３図　倉賀野下樋越遺跡の遺構と土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第４図　竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第５図　１号竪穴建物・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第６図　２号竪穴建物・出土遺物１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第７図　２号竪穴建物出土遺物２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第８図　２号竪穴建物出土遺物３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第９図　３号竪穴建物・出土遺物１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第10図　３号竪穴建物出土遺物２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第11図　溝・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第12図　井戸・出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第13図　土坑・出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第14図　ピット１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
第15図　ピット２・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第16図　中世以後の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第17図　倉賀野下樋越遺跡と
　　周辺の９世紀後半代の発掘調査遺構 ・・・・ 23

表目次

第１表　倉賀野上樋越遺跡周辺の主要遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
遺構一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

写真図版目次

扉　調査区遠景　南東から
PL.1　1　調査区遠景　北西から
2　調査区遠景　西から
3　調査区全景　上が北
4　1号トレンチ断面　西から
5　2号トレンチ断面　北から
PL.2　1　1号～3号竪穴建物　上が北
2　1号竪穴建物調査風景　東から
3　1号竪穴建物　西から
4　1号竪穴建物土層断面Aライン　南から
5　1号竪穴建物土層断面Bライン　西から
PL.3　1　1号竪穴建物掘方　西から
2　1号竪穴建物掘方底面の炭化物　西から
3　1号竪穴建物掘方土層断面Aライン　南から
4　1号竪穴建物掘方土層断面Bライン　西から
5　1号竪穴建物出土遺物
PL.4　1　2号竪穴建物　西から
2　2号・3号竪穴建物土層断面Aライン　南から
3　2号・3号竪穴建物土層断面Aライン西端部　南から
4　2号竪穴建物土層断面Bライン　西から
5　2号竪穴建物縁軸陶器1出土状況　南から
6　2号竪穴建物縁軸陶器2出土状況　南から
7　2号竪穴建物土錘出土状況　南から
8　2号竪穴建物掘方　西から
PL.5　1　2号竪穴建物出土遺物 1
PL.6　1　2号竪穴建物出土遺物 2
2　3号竪穴建物　東から
3　3号竪穴建物土層断面Bライン　東から
4　3号竪穴建物遺物出土状況　東から
5　3号竪穴建物掘方　西から
6　3号竪穴建物出土遺物 1
PL.7　1　3号竪穴建物出土遺物 2
2　1号溝　南東から
3　1号溝土層断面　南から
PL.8　1　2号溝　南から
2　2号溝土層断面　南から
3　4号・5号溝　上が北
4　4号・5号溝　東から
5　溝出土遺物
6　1号井戸　東から
7　1号井戸土層断面　東から
8　1号井戸出土遺物
PL.9　1　1号土坑　南から
2　1号土坑土層断面　南から
3　1号土坑出土遺物
4　2号土坑　南から
5　2号土坑土層断面　南西から
6　3号土坑　南から
7　3号土坑土層断面　南から
8　2号・3号ピット　南から
9　2号・3号ピット断面　南から
10　4号ピット　南から
11　4号ピット断面　南から
12　5号ピット　南から
13　5号ピット断面　南から
14　6号ピット　南から
15　6号ピット断面　南から
PL.10　1　7号ピット　南から
2　7号ピット断面　南から
3　8号ピット　南から
4　8号ピット断面　南から
5　9号ピット　南から
6　9号ピット断面　南東から
7　10号ピット　南から
8　10号ピット断面　南から
9　11号ピット　南から
10　11号ピット断面　南から
11　12号ピット　南から
12　12号ピット断面　南から
13　13号ピット　南から
14　13号ピット断面　南から
15　14号ピット　南から
PL.11　1　15号ピット　南から
2　14号・15号ピット断面　南から
3　16号ピット　南から
4　16号ピット断面　南から
5　17号ピット　南から
6　17号ピット断面　南から
7　19号ピット　南から
8　19号ピット断面　南から
9　20号ピット　南から
10　20号ピット断面　南から
11　21号ピット　南から
12　21号ピット断面　南から
13　22号ピット　南から
14　22号ピット断面　南から
15　23号ピット　南から
PL.12　1　23号ピット断面　南から
2　24号ピット　南から
3　24号ピット断面　南から
4　25号ピット　南から
5　26号ピット　南から
6　27号ピット　南から
7　27号ピット断面　南から
8　28号ピット　南から
9　28号ピット断面　南から
10　28号ピット出土遺物
11　29号ピット　南から
12　29号ピット断面　南から
13　遺構外出土遺物
PL.13　1　3号溝　南西から
2　3号溝断面　南西から
3　1号ピット　南から
4　1号ピット断面　南から
5　18号ピット　南から
6　18号ピット断面　南から

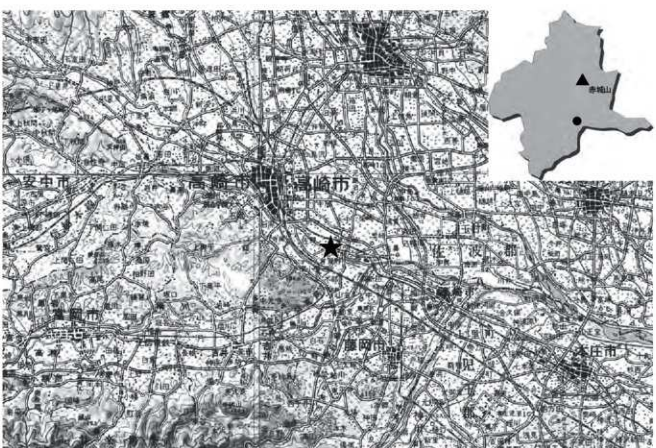
第１章　倉賀野下樋越遺跡の発掘調査

第１節　発掘調査に至る経過

本事業は、倉賀野交番建設事業に伴う、建物建築部分の発掘調査事業である。事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地、倉賀野下樋越遺跡(高崎市遺跡番号03369)にあたるところから、建築工事に先立って、令和４年８月に群馬県地域創生部文化財保護課による試掘・確認調査が行われ、古代の竪穴建物や溝等が確認された。事業地の変更等による埋蔵文化財保護が困難であったため、対象範囲に含まれる埋蔵文化財については、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の措置を講じることとなった。これを受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、群馬県警察本部の委託により、令和５年５月に発掘調査を実施した。

第２節　発掘作業・整理等作業の経過

発掘作業　発掘作業には担当者１名があたった。令和５年５月１日に開始し、同年５月31日に終了した。発掘調査対象面積は141.14㎡である。本遺跡の周辺にはＪＲ倉賀野駅前の住宅地が広がっており、調査区横の道路は地元小中学生の通学路になっている。このことから発掘調査に先立ち、道路と調査区の境界部分に安全柵を設置するなど安全対策を行った。遺構確認面までの表土除去作業は、調査の効率化を図るため、0.5㎥バックホーを使用して行った。事業地が狭小であったことから、隣接地を借用して排土置き場とし、砂塵の飛散を防ぐため排土全体をブルーシートで覆うなどの対策を行った。



第１図　倉賀野下樋越遺跡の位置(国土地理院1/200000地勢図「宇都宮」・「長野」平成18年４月１日発行)

遺構の確認や精査は発掘調査作業員(以下作業員)による人力掘削で行った。遺構掘り下げ作業や埋土の土層観察用ベルト設定位置などの作業指示は、担当者が遺跡掘削技術者に指示し、作業員が行った。遺構掘り下げ作業は、遺物や埋土観察用ベルトを残した状態で行い、埋土や遺構・遺物の写真記録作業などは担当者が行った。遺構全景、遺物出土状態、土層断面の写真撮影は、中型カメラによるモノクロフィルム及びデジタルカメラによる撮影を行った。デジタルカメラはキャノン製EOS 6D(35㎜相当)を使用し、撮影データはRAW形式で保存した。

発掘調査によって検出された各種遺構の断面図や平面図の作成、および調査区全体の空中写真撮影については、測量会社に委託して行った。遺構平面図は1/20図を原則とし、遺構断面図も平面図に合わせ、原則として1/20として作図し、個別遺構についても1/20を基本として作図した。発掘区の全体図は1/100とした。

出土遺物は遺構を重視し、遺構底面近くから出土したものに番号を付した。遺物の洗浄注記は専門業者に委託して行った。なお、出土遺物の注記等に使用した本遺跡の略号はＫＳである。

発掘調査終了後には再び0.5㎥バックホーを使用し、転圧しながら埋め戻しを行った。

発掘作業日誌抄

５月１日	発掘作業を開始。重機による除草、砕石敷設、事務所プレハブ等設置、資材搬入、近隣住民、区長、地権者への挨拶。
５月９日	調査区北寄りから遺構精査、トレンチ調査を開始。
５月10日	１～３号竪穴建物を確認。
～16日	１号竪穴建物調査。
17日	地元中学生による遺跡見学。
～18日	１号井戸調査。
～19日	溝調査。
～22日	２号竪穴建物・土坑・ピット調査。
～24日	３号竪穴建物調査。
25日	空中写真撮影。
26日	遺構地上測量、調査区埋め戻し・資材搬出。
29日	安全策撤去・資材搬出。
30日	電気設備等撤去・資材搬出、埋蔵物発見届提出、高崎市教委文化財保護課へ挨拶。
31日	事務所撤去・遺物搬出、地権者へ挨拶。発掘作業を終了する。

整理等作業　令和６年４月１日から同年５月31日まで、担当者１名をあてて実施した。発掘時に記録された図面をPDF化して、図面編集を行うとともに、報告書掲載用のレイアウトを行った。また、現場撮影写真データを確認し、報告書掲載用遺構写真を抽出した。あわせて、掲載遺物の選別、接合、復元、写真撮影、実測図作成を行った。遺構、遺物の図面、写真ともにデジタル編集を行い、並行して各発掘区・遺構及び遺物の基本記載を行った。これらをあわせて、報告書編集用デジタルデータを作成した。印刷、校正等を経て、令和６年８月に発掘調査報告書を作成・刊行し、配布した。

本報告書の編集に当たっては、古い時代から新しい時代の順で、遺構の種別ごとに、発掘時点で付された遺構番号順に、遺構と遺物に関する記載を行った。各遺構の計測値等及び個別遺物の観察結果については巻末の一覧表にまとめた。

第３節　倉賀野下樋越遺跡の位置と地理的・歴史的環境

倉賀野下樋越遺跡は烏川左岸の高崎台地の南端近くに立地し、標高はおよそ83mである。地形はほぼ平坦で、北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。高崎台地は2.4万年前に生じた浅間山の山体崩壊による前橋泥流の堆積面を基盤とし、その上位に高崎泥流などが堆積する。東の前橋台地との間には井野川低地が広がり、西から南にかけては烏川に画される。台地面には自然河川は乏しく、土壌条件とも相まって、農業水利に恵まれた土地柄ではない。長野堰から倉賀野堰を経て分岐する一貫堀川が本遺跡の北方を東西走しているが、かつては桑園を主とする畑地が多くを占めた地であった。

本遺跡周辺には旧石器時代の遺跡は認められておらず、縄文時代、弥生時代についても、当遺跡から東にやや離れた下佐野遺跡(25)、南東の倉賀野万福寺遺跡(10)に縄文時代中後期の集落があるが、希薄である。古墳時代になると、烏川沿いの下佐野遺跡、倉賀野万福寺遺跡などで集落や墓域が調査されており、４世紀代の柴崎蟹沢古墳(Ａ)、５世紀代の浅間山古墳(Ｂ)や大鶴巻古墳(Ｃ)、小鶴巻古墳(Ｄ)など、継起的に有力な古墳が築かれ、６世紀代前半の空白期を挟みつつ、漆山古墳(Ｊ)、長賀寺山古墳(Ｈ)といった中型の前方後円墳や一本杉古墳(Ｆ)、安楽寺古墳(Ｇ)など、截石積みの横穴式石室を持つ終末期古墳まで築造が継続する。奈良・平安時代になると、集落形成が本格化し、当遺跡直近では、倉賀野上樋越遺跡(２)、倉賀野駅北遺跡(３)、倉賀野下天神遺跡(４)、倉賀野辻薬師遺跡(５)、倉賀野中里前遺跡(６)、

第２図　倉賀野下樋越遺跡と周辺の主要遺跡　数字・記号は表１と対応する。網掛けは埋蔵文化財包蔵地を示す。

（マッピングぐんま　遺跡マップ　1/10000利用　令和６年４月８日　http://mapping.gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma-isoki/Portal　編集・加工）

第１表　倉賀野下樋越遺周辺の主要遺跡

№	遺跡等名名	主な時代・遺構など	出典等
1	倉賀野下樋越遺跡	平安集落	本書
2	倉賀野上樋越遺跡	奈良・平安集落・道状遺構	高崎教委2014『倉賀野上樋越遺跡』・2020『倉賀野上樋越遺跡２ 倉賀野上樋越遺跡３ 倉賀野上樋越遺跡４』
3	倉賀野駅北遺跡	平安集落・水田・溝	高崎教委2006『倉賀野駅北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡』
4	倉賀野下天神遺跡	平安水田	スナガ環境測設1995『下天神遺跡』
5	倉賀野辻薬師遺跡	古墳・平安集落・畑	高崎考古学研究所2014『倉賀野辻薬師遺跡』
6	倉賀野中里前遺跡	古墳・奈良・平安集落	山武考古学研究所1996『倉賀野中里前遺跡』
7	倉賀野中里前Ⅱ遺跡	奈良・平安溝・池・大畦畔	山下工業2015『倉賀野中里前遺跡』
8	倉賀野中里前遺跡・東中里狐塚遺跡	平安水田	スナガ環境測設2015『倉賀野中里前・東中里狐塚遺跡』
9	倉賀野条里遺跡・倉賀野続橋遺跡	平安水田	高崎教委2001『倉賀野条里１・２・３・４・５遺跡』・1999『倉賀野続橋遺跡』
10	倉賀野万福寺遺跡	縄文・古墳集落・古墳・周溝墓	高崎市倉賀野万福寺遺跡調査会1983『倉賀野万福寺遺跡』
11	倉賀野万福寺Ⅱ遺跡	縄文・古墳集落・古墳・周溝墓	高崎調査会1994『倉賀野万福寺２遺跡発掘調査報告書』
12	宮之前遺跡	古墳集落・古墳・周溝墓	高崎教委1980『宮之前遺跡』
13	倉賀野下新堀遺跡	平安水田	高崎教委2009『倉賀野下新堀遺跡』
14	倉賀野西上正六遺跡	古墳・奈良・平安集落・溝・棚	高崎教委2010『倉賀野西上正六遺跡』
15	宮原町遺跡	平安集落・水田・溝	スナガ環境測設2016『宮原町遺跡』・『宮原町遺跡２』技研コンサル2019『宮原町遺跡３』
16	下之城村前遺跡	平安集落・水田・溝・中世館跡	高崎教委2001『下之城村前３・倉賀野上新堀１遺跡』・2002『下之城村前４遺跡』・2003『下之城村前５遺跡』・2013『下之城村前遺跡』
17	下之城村前Ⅱ遺跡	平安水田	スナガ環境測設1996『下之城村前２遺跡』
18	下之城仲沖遺跡	奈良・平安集落・水田	高崎教委2004・2013・2014『下之城仲沖遺跡』・2005『下之城仲沖２遺跡』
19	下之城村東遺跡	平安水田	下之城村東遺跡調査会1983『下之城村東遺跡』・高崎教委2009『下之城・村東遺跡』
20	下之城条里遺構	平安水田・中世館跡	群埋文1981『下之城条里遺構の調査』
21	下之城村西遺跡	中世耕作痕	高崎教委1993『高崎内遺跡理蔵文化財緊急発掘調査報告書』
22	下之城遺跡群	平安水田・上淵集中	高崎教委2016『下之城遺跡群１』
23	上佐野樋越遺跡	平安水田	群埋文2002『上佐野樋越遺跡』
24	上佐野舟橋遺跡	古墳・平安集落・水田・古墳	群埋文1989『舟橋遺跡』・高崎調査会1992『上佐野舟橋遺跡』・毛野考古学研究所2014『上佐野舟橋遺跡』・シン技術コンサル2018『上佐野舟橋遺跡』
25	下佐野遺跡	縄文・古墳・平安集落・古墳・周溝墓	群埋文1986『下佐野遺跡２地区』・1989『下佐野遺跡』
26	下佐野一本木遺跡	平安集落	高崎教委2008『下佐野一本木遺跡』
27	下佐野長者屋敷遺跡	古墳・奈良・平安集落	高崎教委2009『下佐野長者屋敷遺跡』
28	和田多中遺跡	平安水田	高崎教委1989『高崎内遺跡緊急理蔵文化財発掘調査報告書』
29	双葉町１遺跡	古墳・平安集落・水田	山武考古学研究所1996『双葉町１遺跡』
30	下中居天神裏遺跡	古墳・奈良・平安・中世水田・集落	高崎教委2012『下中居天神裏遺跡』・毛野考古学研究所2017『下中居天神裏遺跡３』
31	上中居前屋敷遺跡	古墳・平安・中世水田・溝・井戸	高崎教委2015『上中居前屋敷遺跡』
32	下中居条里遺跡	古墳・平安・中世集落・井戸・水田	高崎教委1996・1998・2003『下中居条里遺跡』
33	柴崎村間遺跡	古墳上坑	高崎調査会1990『柴崎村間遺跡』
34	柴崎熊野前遺跡	古墳・平安・中近世整穴建物・水田・溝	群埋文1998・2011『柴崎熊野前遺跡』
35	柴崎熊野前Ⅰ遺跡	河川跡	高崎調査会1990『柴崎熊野前１遺跡 柴崎二本木１遺跡柴崎道場１・Ⅱ遺跡 東中里柴崎道場１遺跡 柴崎宮原１遺跡』
36	柴崎二本木Ⅰ遺跡	古墳・平安集落・集落	毛野考古学研究所2014『柴崎屋敷遺跡』
37	柴崎道場１・Ⅱ遺跡	平安水田	高崎教委1983『村北Ａ・天王前遺跡』
38	柴崎屋敷遺跡	古墳・古代溝・土坑・中世城館	高崎教委1983『宝昌寺裏遺跡』
39	矢中天王前遺跡	平安水田	高崎教委1985『矢中村北Ｂ遺跡』
40	矢中村北Ａ遺跡	平安水田	高崎教委1986『下村北・砂内遺跡』
41	矢中宝昌寺裏遺跡	平安・中世整穴建物・水田・城館	高崎教委1987『矢中村東Ｃ遺跡』
42	柴崎前遺跡	平安集落・水田	高崎教委1988『矢中村東Ｃ遺跡』
43	矢中村北Ｂ遺跡	平安集落・水田	高崎教委1989『矢中村西１遺跡』
44	矢中村北Ｃ遺跡	中世堀・溝	高崎教委1990『矢中村北Ｄ・下村北Ⅱ・渕ノ内遺跡』
45	矢中村東遺跡	古墳・平安周溝墓・水田	高崎教委1991『矢中村北Ｅ遺跡』
46	矢中村東Ｂ遺跡	古墳・平安周溝墓・水田	高崎教委1992『矢中村北Ｆ遺跡』
47	柴崎下村北・砂内遺跡	古墳・平安・中世古墳・水田・城館	高崎調査会1994『矢中村西１遺跡』
48	矢中村東Ｃ遺跡	古墳・平安・中世周溝墓・古墳・水田・城館	高崎教委1995『矢中村北Ｇ・下村北Ⅲ・渕ノ内遺跡』
49	矢中村西１遺跡	平安水田	高崎教委2001『矢中村北Ｈ遺跡』
50	矢中村北Ｄ遺跡	奈良・平安集落・水田	高崎調査会1996『矢中村西１遺跡』
51	矢中下村北Ⅱ遺跡	平安水田	高崎教委2002『矢中村北Ｉ遺跡』
52	矢中渕ノ内遺跡	平安水田	高崎教委2003『矢中村北Ｊ遺跡』
Ａ	柴崎蟹沢古墳		
Ｂ	浅間山古墳		
Ｃ	大鶴巻古墳		
Ｄ	小鶴巻古墳		
Ｅ	庚申塚古墳		
Ｆ	一本杉古墳		
Ｇ	安楽寺古墳		
Ｈ	長賀寺山古墳		
Ｉ	御堂塚古墳		
Ｊ	漆山古墳		
Ｋ	蔵王塚古墳		
Ｌ	長者屋敷天王山古墳		
あ	東中里城		
い	倉賀野城		
う	倉賀野西城		
え	倉賀野東城		
お	永泉寺の砦		
か	和田下之城		

報告書発行者の略記は以下による。
高崎教委：高崎市教育委員会
高崎調査会：高崎市遺跡調査会
群埋文：群馬県埋蔵文化財調査事業団

古墳は「群馬県古墳総覧」(群馬県教育委員会2017)
城館は「群馬県の中世城館跡」(群馬県教育委員会1989)を参考とした。

同Ⅱ遺跡（７）が調査されている。倉賀野辻薬師遺跡と倉賀野中里前遺跡では７～８世紀の竪穴建物が見つかっている。倉賀野上樋越遺跡、倉賀野駅北遺跡では９世紀後半の竪穴建物があり、本遺跡の竪穴建物もこの集落の一角を占めるものと考えられる。また、倉賀野上樋越遺跡には並行する２条の溝があり、東の倉賀野中里前遺跡まで連続する古代の道路状遺構と想定される。道路状遺構の南側には、複数期にわたる掘立柱建物群が配置される。当遺跡からは陰刻花紋を付した緑釉陶器が出土しているが、倉賀野上樋越遺跡にも同様品があり、加えて奈良三彩の出土も報じられている。道路と計画的に配置された建物のありようをあわせて、公的な施設であろうことが示される。また、これら集落の営まれる微高地周辺の低地域では、As-B下面の水田が広域で見つかっている。倉賀野上樋越遺跡、倉賀野駅北遺跡ではAs-B下水田や水路、条里的地割の地境をなすと思われる大型畦畔の痕跡が確認されており、倉賀野中里前Ⅱ遺跡でも地境をなすと思われる大溝が確認されている。

中世では、倉賀野城（い）を中心とした城館群や寺院が多くみられる。永泉寺の砦（お）のほか、倉賀野上樋越遺跡の南西隅で確認された堀も、中世の館跡の一部と思われる。倉賀野駅北遺跡には中世の掘立柱建物がある。

第２章　発掘された遺構と遺物

第１節　概要

Ｘ＝33705～33715・Ｙ＝-70395～-70410グリッド。調査区南北長14m、東西幅16m、面積141.14㎡。遺構確認面最高標高83.24m、最低標高83.06m。調査区内の地形はほぼ平坦で、北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。

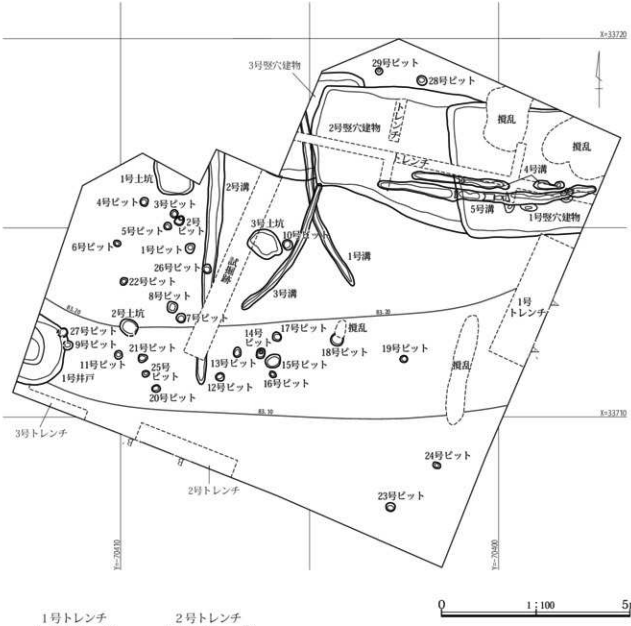
竪穴建物３棟、溝５条、井戸１基、土坑３基、ピット29基を調査した。うち溝１条、ピット２基が中世以後の所産と思われ、他は平安時代に帰属する遺構である。

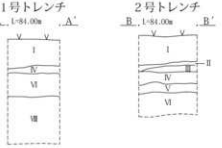
伴出遺物から帰属する時代が明らかな竪穴建物や井戸のほか、遺構埋土が砂粒、シルトを含む黒褐色土を主体としていて、As-Bを含まない溝、土坑、ピットを平安時代の所産とした。出土遺物を見ても、９世紀後半を中心に、８世紀から10世紀にかけての土師器、須恵器が主体を占め、緑釉陶器、灰釉陶器が少数ながら認められる。古代の遺構は、竪穴建物３棟、溝４条、井戸１基、土坑３基、ピット27基がある。竪穴建物は、調査区北部に３棟が並列するように重複する。西の３号竪穴建物から東へ、２号、１号竪穴建物の順に建て替えられている。いずれも残りが悪いため、全景を窺うことができず、竈も確認できないが、東西に長い長方形の平面形が想定される。土師器、須恵器の杯・椀類を中心に比較的多くの土器が出土している。３号竪穴建物が９世紀第３四半期、２号竪穴建物が同第３～第４四半期にかけて、１号竪穴建物が同第４四半期の様相を示す土器を出土しており、これは遺構の重複関係とも矛盾しない。９世紀後半代に継起的に３棟が建てられたものである。出土土器が比較的多いにもかかわらず、煮沸形態の土器がごく少ない点も注目される。その他、２号竪穴建物からは緑釉陶器片、土錘が出土している。溝のうち、１・２号溝は南北走し、シルト質、砂質の埋土である。４・５号溝は狭い間隔を置いて、並行して東西走する。ともに途中途切れ、あるいはごく浅くなる部分があって、埋土にはブロック状の地山が含まれる。連続した掘削痕跡が並行する。井戸は地山井筒の素掘りの井戸で、出土遺物中に羽釜片が含まれることから、竪穴建物よりは新しい時期まで使用されたものである。土坑は顕著な遺物出土や特定の機能を窺えるものがない。ピットは調査区西部に偏在するが、柱痕が認められたものはなく、柱穴列や掘立柱建物などの構造を示すものも認められなかった。

古墳時代以前の遺構・遺物は認められなかった。

第２節　旧石器・縄文時代～古墳時代

トレンチを２か所設定して、旧石器の確認調査を行った。As-YPの堆積は確認できたものの、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は検出されなかった。縄文～古墳時代についても、確認されなかった。





Ⅰ　区画整理事業に伴う客土

Ⅱ　暗褐色土(10YR3/3)　As-A、As-Bをやや多量に含む。粘性弱く、締まり強い。

Ⅲ　黒褐色土(10YR2/2)　As-Bを多量に含む。粘性弱く、締まり強い。

Ⅳ　黒褐色土(10YR2/2)　赤褐色(5YR4/8)片を少量、炭化物粒礫(φ２mm以下)を微量含む。粘性、締まり強い。

Ⅴ　灰褐色土(7.5YR4/2)　赤褐色片を多量に含む。粘性、締まり強い。

Ⅵ　黒褐色土(7.5YR2/2)　礫(φ20mm以下)を多量に含む。部分的に赤褐色(5YR4/8)～暗赤褐色(5YR3/6)に変色している。粘性やや弱く、締まり強い。

Ⅷ　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　上位はAs-YPを含み、部分的に黄褐色(10YR5/8)に変色している。シルト質。粘性、締まり非常に強い。

第３図　倉賀野下樋越遺跡の遺構と土層

第３節　平安時代の遺構と遺物

第１項　竪穴建物

１号竪穴建物

位　置　Ｘ＝33710～33715・Ｙ＝-70400～-70395グリッド。調査区北東隅にあり、東部は調査区外に広がる。４・５号溝の上位にある。３棟並んだ竪穴建物の東端にあたる。確認面最高標高83.20m、床面最高標高83.06m。

規模・形状　長軸長4.55m、短軸長3.57m、最大壁高15㎝。主軸方位はＮ-87°-Ｗ。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。

埋　土　礫や炭化物粒を少量含む黒褐色土を主体とする。部分的に赤褐色片を含む。粘性・しまりが強く、貼床との違いが明瞭でない。

床・掘方　掘方底面には炭化物粒をやや多く含む黒色土があり、西壁中央近くには東西84㎝、南北58㎝の長円形の範囲に、炭化物の集中層が見られる。底面に焼土化は見られなかったので、この場所で何かを燃やした可能性は低い。また、形状が円形であったことから、重複する土坑の可能性も考えたが存在を証明する材料はなかった。この土位に炭化物片や灰、赤褐色片を含む黒褐色土を充填して床面を形成する。掘方は南壁際と北壁際が高く、中央付近が東西方向にやや深く掘り込まれていた。床面から掘方底面までは最大19㎝ほどある。北半部分には倒木があり、部分的に深掘りした。

竈　確認されていない。東壁や北壁東部が調査区外にあるため、この部分に築かれたものと思われるが、顕著な焼土ブロック・灰などの分布は見られない。

貯蔵穴・柱穴・ピット・土坑等　確認されていない。

遺物出土状況　埋土からは須恵器の杯・蓋・壺、土師器の甕・小型甕・杯の破片が多く出土した。床面には須恵器杯・甕・壺頸部片が散在する。掘方からも、土師器、須恵器片が多く出土している。

時　期　９世紀後半

２号竪穴建物

位　置　Ｘ＝33710～33715・Ｙ＝-70400グリッド。調査区北東隅にある。東は１号竪穴建物に切られる。西辺は３号竪穴建物を切る。４・５号溝の上位にある。３棟並んだ竪穴建物の中央にあたる。確認面最高標高83.20m、床面最高標高83.09m。

規模・形状　長軸長4.46m、短軸長2.64～3.53m、最大壁高17㎝。主軸方位はＮ-80°-Ｗ。平面形は東西に長い長方形を基本とするが、西壁が短く、東に向かって広がる。

埋　土　上層は黒褐色土ブロックを多量に含む黒色土を主体とし、下層は赤褐色片をやや多く含み、炭化物粒を少量含む黒褐色土を主体とする。西壁付近には礫が多量に含まれる。１号竪穴建物の埋土の違いは明瞭ではなく、わずかな硬さ・色の違いで判断した。

床・掘方　掘方は１号竪穴建物同様に、中央付近が東西方向にやや深く掘り込まれていた。Ｐ１は掘方調査の途中で炭化物が出土したことによって認識ができたものである。倒木痕と重複していたことから、北東側を深掘りして底部を確認した。北壁と南壁が広がっている部分では掘方が確認できなかったことから、この部分は壁の崩落によって広がった可能性が高い。土層の判別が困難で、この地域でみられる貼壁状の構造は確認できなかった。掘方に、小礫や赤褐色片をやや多く含み、炭化物粒を少量含む黒褐色土を充填して床面を構成する。

竈　確認されていない。東壁や北壁東部が調査区外にあるため、この部分に築かれた、あるいは１号竪穴建物に壊された可能性が考えられるが、重複部付近でも焼土ブロック・灰などは確認できなかった。

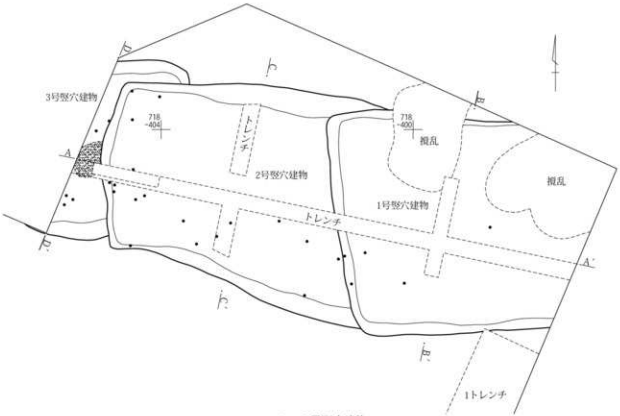
貯蔵穴・柱穴・ピット・土坑等　竪穴北東部の掘方底面にピット１基がある。長軸長55㎝、短軸長42㎝、周囲の掘方底面からの深さ12㎝、長軸方位はＮ-49°-Ｗで、北西-南東に長い偏円形の平面形を呈する。埋土は黒褐色土を主体とし、上位に炭化物粒や灰を多量に含む。

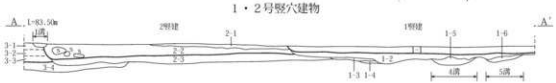
遺物出土状況　西部から南部にかけて、土師器、須恵器の杯、須恵器甕が多く出土している。南東部からは陰刻花文のある緑釉陶器片が出土している。また、土錘２点がある。掘方では、西部から北部にかけて須恵器の杯を中心とした遺物が出ている。器壁の薄いコ字状口縁の土師器甕の破片もみられるが、杯・椀類が多くを占める。

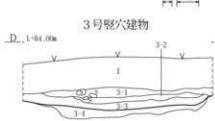
時　期　９世紀後半

３号竪穴建物

位　置　Ｘ＝33715・Ｙ＝-70405～-70400グリッド。調査区北隅にある。東壁は２号竪穴建物に切られる。西は







１～３号竪穴建物

1　区画整理事業に伴う客土

1-1　黒褐色土(10YR3/2)　礫(φ30mm以下)、炭化物粒(φ３mm以下)を少量含む。部分的に赤褐色(5YR4/8)片を含む。粘性、締まり強い。

1-2　黒褐色土(10YR2/2)　礫(φ70mm以下)、炭化物片(φ30mm以下)、灰、赤褐色片をやや多量に含む。粘性、締まり強い。(掘方)

1-3　炭化物層(掘方)

1-4　黒色土(10YR2/1)　赤褐色片、炭化物粒(φ３mm以下)をやや多量に含む。粘性、締まり強い。(掘方)

1-5　灰黄褐色土(10YR4/2)　赤褐色片、にぶい黄橙色土(10YR6/3)ブロック(φ10mm以下)をやや多量に含む。粘性強い、締まりやや強い。

1-6　灰黄褐色土(10YR4/2)　赤褐色片、にぶい黄橙色土ブロック(φ10mm以下)を多量に含む。粘性強い、締まりやや強い。

2-1　黒色土(10YR2/1)　黒褐色土ブロック(φ10mm以下)を多量に、赤褐色片を微量含む。粘性、締まり強い。

2-2　黒褐色土(10YR3/2)　礫(φ10mm以下)、赤褐色片をやや多量に、炭化物粒(φ５mm以下)を少量含む。粘性、締まり強い。西壁付近のみ礫(φ150mm以下)を多量に含む。

2-3　黒褐色土(10YR3/1)　礫(φ30mm以下)、赤褐色片をやや多量に、炭化物粒(φ５mm以下)を少量含む。粘性、締まり非常に強い。(掘方)

2-4　黒褐色土(10YR3/2)　暗灰黄色土(2.5YR5/2)ブロック(φ５mm以下)を多量に含む。粘性、締まり強い。

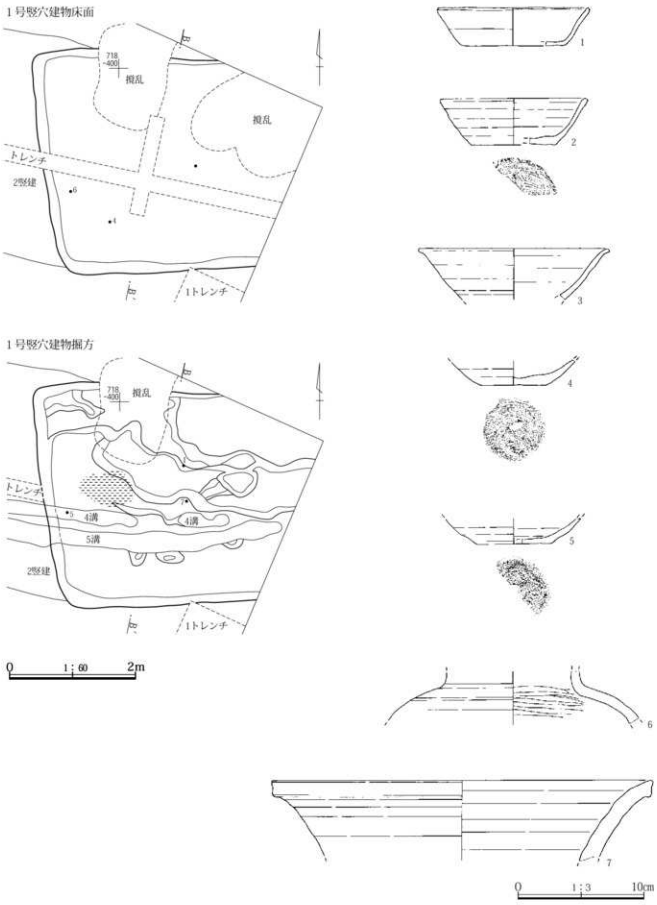
3-1　黒褐色土(10YR2/2)　礫(φ150mm以下)、炭化物粒(φ５mm以下)をやや多量に含む。粘性、締まり強い。

3-2　黒褐色土(10YR3/2)　礫(φ50mm以下)、炭化物粒(φ３mm以下)、赤褐色片(5YR4/8、以下同じ)を少量含む。粘性、締まり強い。

3-3　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物粒(φ10mm以下)、灰をやや多量に、赤褐色片を少量含む。粘性、締まり強い。

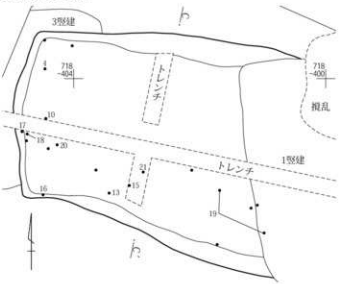
3-4　黒褐色土(10YR3/1)　赤褐色片をやや多量に、炭化物粒(φ２mm以下)を微量含む。粘性、締まり非常に強い。(掘方)

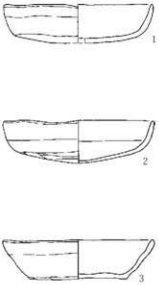
第４図　竪穴建物



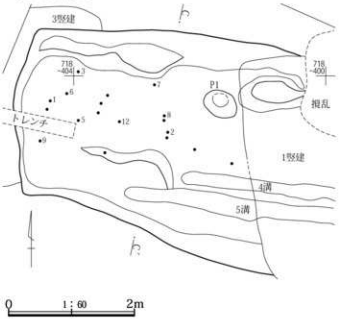
第５図　１号竪穴建物・出土遺物

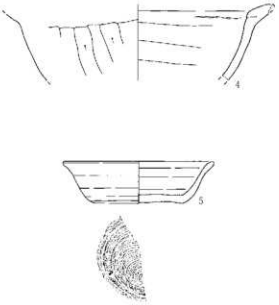
２号竪穴建物床面

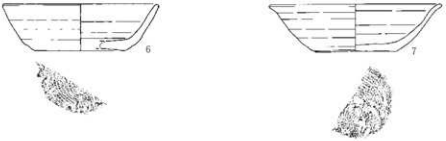




２号竪穴建物掘方

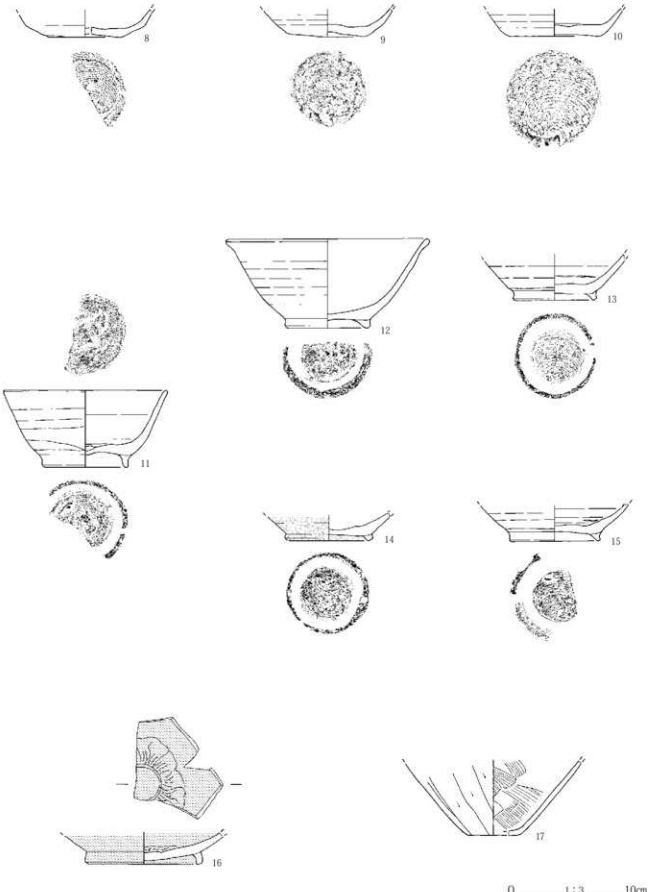




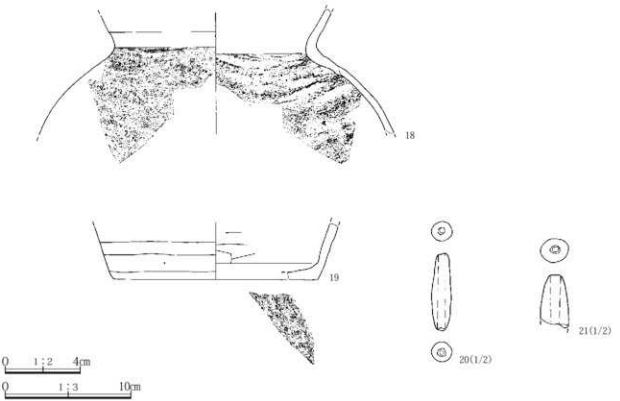


0　1:3　10cm

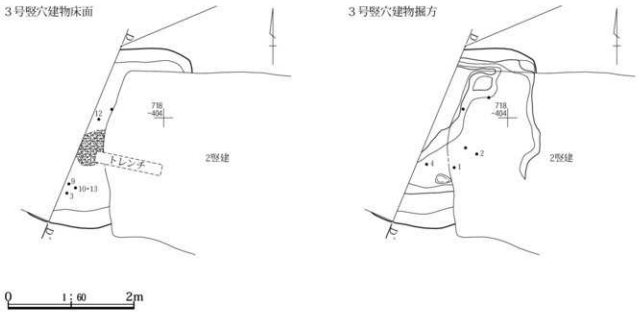
第６図　２号竪穴建物・出土遺物１



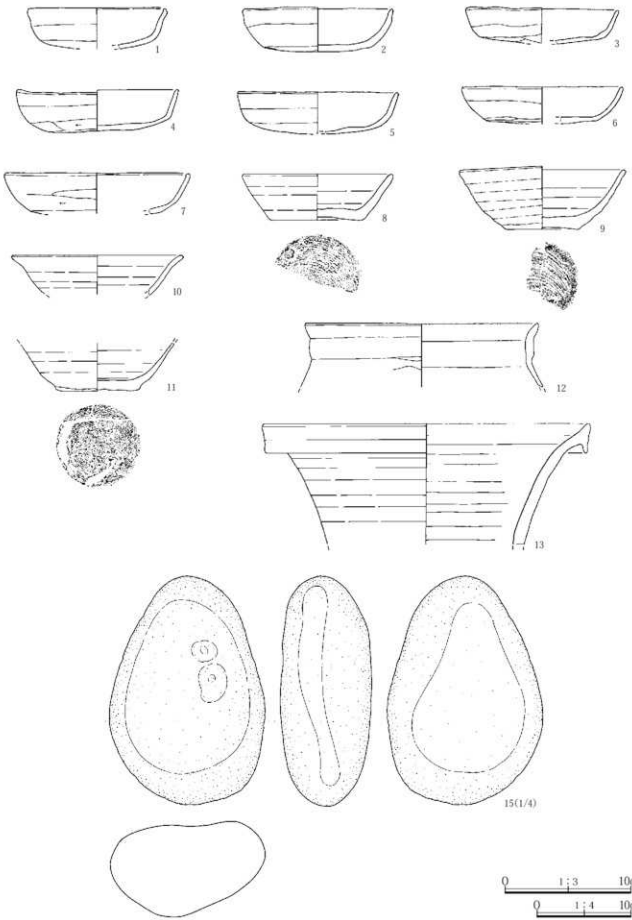
第７図　２号竪穴建物出土遺物２



第８図　２号竪穴建物出土遺物３



第９図　３号竪穴建物・出土遺物１



第10図　３号竪穴建物出土遺物２

調査区外に広がる。１号溝の下位にあたる。確認面最高標高83.19m、床面最高標高83.15m。

規模・形状　長軸長2.89m、短軸長2.42m、最大壁高18㎝。掘方東壁の方位はN－６°－E。平面形は隅丸方形あるいは東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。北壁は比較的直線的だが、南壁は２号竪穴建物同様崩落したものか、南にやや膨らむ。

埋　土　黒褐色土を主体とする。上位には礫や炭化物粒をやや多く含み、下位は炭化物や灰をやや多く含む。

床・掘方　掘方は中央付近が東西方向にやや深く、東壁の一部では、２号竪穴建物に壊されずに残った段差が認められた。掘方に、赤褐色片や炭化物粒を含む黒褐色土を充填して床面を構成する。床面から掘方底面までは最大20㎝ほどある。掘方北壁際には溝状の掘り込みがあったが、これは壁周溝の可能性が考えられる。

竈　確認されていないが、床面中央付近に炭化物と灰が集中したことから、竈は東壁中央付近にあった可能性が考えられる。

貯蔵穴・柱穴・ピット・土坑等　確認されていない。

遺物出土状況　竪穴南部の灰、炭化物集中を囲むように土師器、須恵器の杯類が出土している。灰釉陶器の小片もみられた。掘方からも杯類が出ているが、他の竪穴建物に比して土師器の比率が高い。また、器壁の薄いコ字状口縁土師器甕の胴部と思われる破片もあるが、破片を含めても煮沸形態の土器は少ない。

時　期　９世紀後半

第２項　溝

１号溝　X＝33710～33715・Y＝-70405～-70400グリッド。調査区中央北部にあって、僅かに西に膨らみつつ南北走する。北は調査区外に延び、南は特定の境界施設なく完結する。確認長4.81m、上端幅0.23m、確認面からの深さ９㎝。断面形は椀状。埋土はシルト質の褐灰色土を主体とし、褐色片を含む。確認面最高標高83.23m、最低標高83.22m、底面最高標高83.19m、最低標高83.11m。方位はN－16°－W。南端が高く、北に下るが、最低位は中央北寄りにある。３号竪穴建物を切る。３号溝に切られる。埋土から土師器杯片や須恵器小片が出土している。

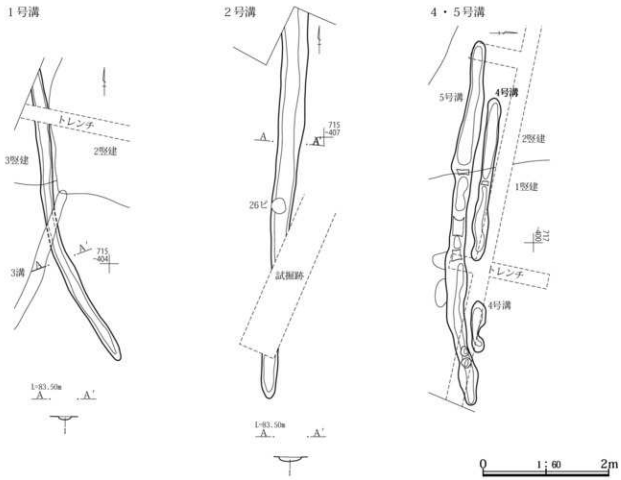
２号溝　X＝33710～33715・Y＝-70405グリッド。確認長6.24m、上端幅0.41m、確認面からの深さ12㎝。断面形は鍋状で、底面は水平。埋土は黒褐色の砂質土を主体とする。確認面最高標高83.20m、最低標高83.15m、底面最高標高83.13m、最低標高83.08m。方位はN－４°－E。調査区中央西寄りにあってほぼ直線的に南北走する。北は調査区外に延び、南は特定の境界施設なく完結する。南端が高く、北へ下る。26号ピットに切られる。埋土から土師器小片が出土している。

４号溝　X＝33715・Y＝-70400～-70395グリッド。調査区北東部にあって、東西走する。確認長4.06m、上端幅0.24m、確認面からの深さ14㎝。断面形は鍋状。埋土は赤褐色片や、にぶい黄橙色土ブロックをやや多く含む灰黄褐色土を主体とする。確認面最高標高83.03m、最低標高82.95m、底面最高標高82.97m、最低標高82.91m。方位はN－86°－W。西端が高く、東端が低いが、途中途切れ、あるいはごく浅くなる部分を挟む。１・２号竪穴建物の下位にあたる。南にほぼ並行して５号溝があり、最小間隔７㎝まで近接するが、切りあわない。埋土から須恵器甕片のほか、土師器・須恵器の小片が出土している。

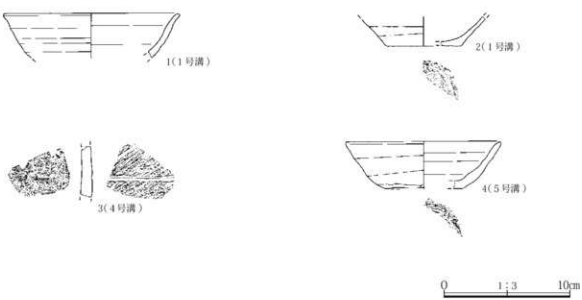
５号溝　X＝33715・Y＝-70400～-70395グリッド。調査区北東部にあって、途中に、ごく浅くなる部分を挟みつつ東西走する。東端近くにはピット状に深くなる部分がある。確認長5.77m、上端幅0.34m、確認面からの深さ21㎝。断面形は鍋状。埋土は赤褐色片やにぶい黄橙色土ブロックを多く含む灰黄褐色土を主体とするが、暗灰黄色土のブロックを含む黒褐色土が主体となる部分もある。確認面最高標高83.08m、最低標高82.99m、底面最高標高82.97m、最低標高82.87m。方位はN－89°－W。北の４号溝とともに、１・２号竪穴建物の下位にあたる。埋土から須恵器杯片のほか、土師器杯・甕の小片が出土している。

第３項　井戸

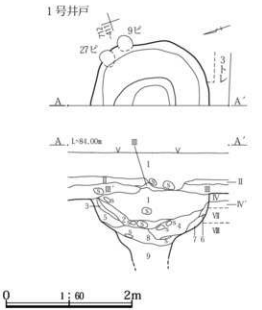
１号井戸　X＝33710・Y＝-70410グリッド。調査区西隅にあたり、西半が調査区外となる。北東部を９・27号ピットに切られる。長軸長0.94m、短軸確認長0.51m、深さ120㎝。底面最低標高82.12m。平面形は円形に近いものと思われ、断面形は漏斗状。確認面から0.69mほどの深さまで掘り込んだのちに、やや北に偏して径0.49m



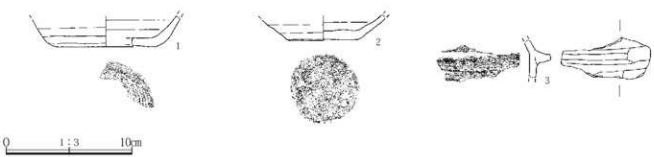
１号溝
1　褐灰色土(7.5YR4/1)　シルト質砂(土)。φ５㎜の褐色片を含む。
２号溝
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。底面は水平で浅い。底部にピットあり。



第11図　溝・出土遺物



Ⅰ　区画整理事業に伴う客土
Ⅱ　暗褐色土(10YR3/3)　As-A・As-Bをやや多量に、礫(φ10mm以下)・炭化物粒(φ３mm以下)を少量含む。粘性弱く、締まり強い。
Ⅲ　黒褐色土(10YR2/2)　As-Bを多量に含む。粘性弱く、締まり強い。
Ⅲ′　黒褐色土(10YR4/4)　褐色土(10YR4/4)ブロック(φ15mm以下)・礫(φ150mm以下)を少量含む。Ⅲ層が攪拌された上。粘性弱く、締まり強い。
Ⅳ　黒色土(10YR2/1)　赤褐色片(5YR4/8)を微量含む。粘性、締まり強い。
Ⅳ′　黒色土(10YR2/1)　赤褐色片・褐色土粒(10YR4/4)（φ５mm以下)を少量含む。粘性、締まり強い。
Ⅶ　褐色土(10YR4/4)　赤褐色片をやや多量に含む。粘性、締まり強い。
Ⅷ　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　上位はAs-YPを含み、部分的に黄褐色(10YR5/8)に変色している。シルト質。粘性、締まり非常に強い。
1　黒褐色土(10YR2/2)　赤褐色片・礫(φ150mm以下)をやや多量に、炭化物粒(φ５mm以下)を微量含む。粘性、締まり強い。
2　黒褐色土(10YR3/1)　礫(φ150mm以下)・砂を少量、赤褐色片・炭化物粒(φ２mm以下)を微量含む。粘性、締まり強い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土粒・炭化物粒(φ２mm以下)を微量含む。粘性、しまり強い。
4　黒色土(10YR2/1)　赤褐色片、礫(φ150mm以下)を少量、炭化物粒(φ３mm以下)を微量含む。粘性、締まり強い。
5　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土ブロック(φ15mm以下)を多量に、炭化物粒(φ３mm以下)を微量含む。粘性、締まり強い。
6　黒色土(10YR2/1)　褐色土ブロック(φ10mm以下)をやや多量に、赤褐色片を微量含む。粘性、締まり強い。
7　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土ブロック(φ10mm以下)をやや多量に含む。粘性、締まり強い。
8　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土ブロック(φ15mm以下)をやや多量に、礫(φ100mm以下)・炭化物粒(φ５mm以下)を微量含む。粘性強く、締まりやや弱い。
9　褐色土(10YR4/4)　暗灰黄色土(2.5Y5/2)ブロック(φ30mm以下)・黄褐色土(10YR5/8)ブロック(φ30mm以下)を多量に含む。粘性非常に強く、締まり強い。



第12図　井戸・出土遺物

の井筒部が設けられる。素掘りの井戸で、井戸側は施設されていない。埋土上位は礫や炭化物、赤褐色片や褐色土ブロックを含む黒褐色土を主体とする。井筒部では暗灰黄色土や黄褐色土のブロックを多量に含む褐色土が主体となる。As-Bは含まれず、As-B降下以前に埋没したものである。須恵器杯、土師器杯や甕の破片とともに、１点だが羽釜片が出土しており、10世紀代までの使用が考えられる。

第４項　土坑

１号土坑　Ｘ＝33715・Ｙ＝-70405グリッド。調査区北東部にある。北は調査区外に延びる。長軸確認長0.46m、短軸長0.51m、深さ29cm。底面最低標高83.00m。長軸方位N－２°－W。平面形は隅丸方形ないし南北に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。断面形はやや浅い鍋状で、底面には凹凸がある。As-Bより下位の黒褐色土を切って掘り込まれ、埋土はシルト混じりの中～細砂を含

む黒褐色土を主体としていて、As-Bは含まない。底面から数cm浮いた位置で土師器杯片が出土している他、土師器、須恵器の小片が出土している。

２号土坑　X＝33710・Y＝-70405グリッド。調査区中央北西寄りにある。長軸長0.24m、短軸長0.21m、深さ18cm。底面最低標高83.07m。長軸方位N-57°-W。平面形は北西-南東に長い長円形。南部が深く、北側に向かって緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色の砂質土を主体とし、黄灰褐色砂のブロックを含む。埋土から土師器の小片が出土している。

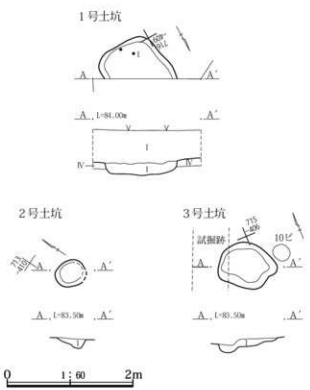
３号土坑　X＝33710・Y＝-70405グリッド。調査区中央西寄りにある。長軸長0.47m、短軸長0.37m、深さ26cm。底面最低標高82.96m。長軸方位N-71°-W。平面形は東西にやや長い不整長円形。西部は椀状に窪み、東部は凹凸を持ちながらなだらかに立ち上がる。埋土は黒褐色の砂質土を主体とし、安山岩礫を含む。埋土から石片が出土している。

第５項　ピット

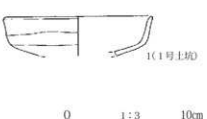
２号ピット　X＝33715・Y＝-70405グリッド。長軸長14cm、短軸長11cm、深さ10/26cm。底面最低標高83.09m。長軸方位N-36°-E。平面形は北東-南西に長い長円形で、南西部がやや幅広となる。北西端は径６cmの円形平面で、底面から16cmほど深くくぼむ。断面形は鍋状。埋土は黒褐色土を主体とする。土師器小片が出土している。

３号ピット　X＝33715・Y＝-70405グリッド。長軸長11cm、短軸長10cm、深さ14cm。底面最低標高83.07m。長軸方位N-6°-E。平面形は円形。断面形は鍋状。埋土上位は黒褐色土、下位は灰褐色の砂質土を主体とする。２号ピットに切られる。

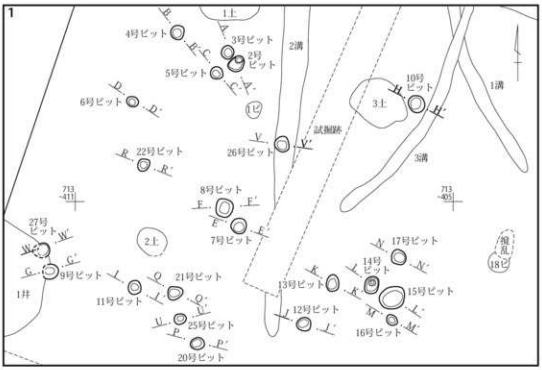
４号ピット　X＝33715・Y＝-70405グリッド。長軸長12cm、短軸長11cm、深さ22cm。底面最低標高83.02m。長軸方位N-45°-E。平面形は円形。断面形はU字状。埋土は黒褐色の砂質土を主体とする。須恵器壺口縁小片・

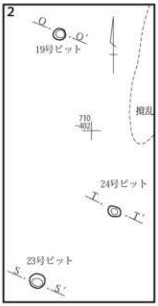


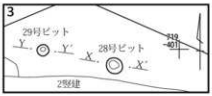
１号土坑
Ⅰ　区画整理事業に伴う客土
Ⅳ　黒褐色土(10YR3/2)　赤褐色片(5YR4/8)、灰褐色土粒(7.5YR4/2)（φ５mm以下)を多量に含む。粘性。締まり強い。
Ⅰ　黒褐色土(7.5YR3/1)　シルト質ビロード中～細粒砂(上)、方形状土坑(古代か)。浅い。底面より数cm上で土師器出土。表土下の黒褐色土(As-Bより下位と推定)を切る。As-Bは含まない。底面は凸凹あり。
２号土坑
Ⅰ　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。φ50～100mmの黄灰褐色砂ブロックを含む。
３号土坑
Ⅰ　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。φ10mmの安山岩礫を含む。底面は凸凹あり。

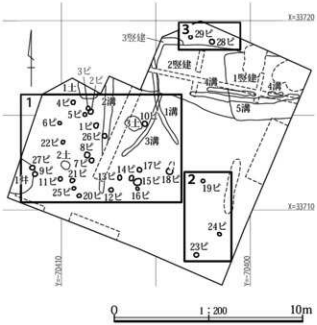


第13図　土坑・出土遺物

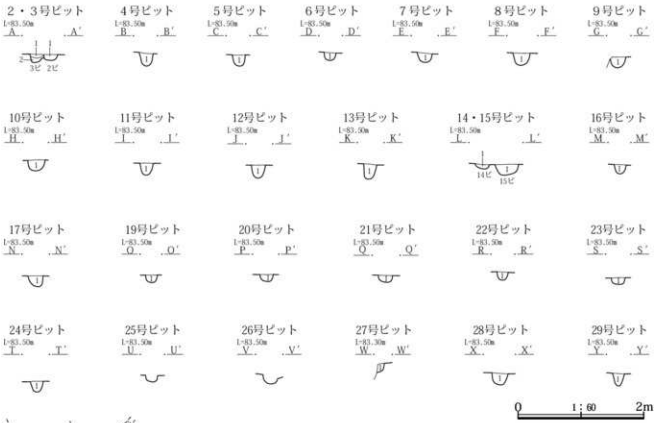

1
1土
2溝
4号ピット
3号ピット
2号ピット
5号ピット
6号ピット
1ピ
10号ピット
3土
1溝
試掘跡
26号ピット
3溝
22号ピット
8号ピット
7号ピット
2土
27号ピット
9号ピット
21号ピット
11号ピット
25号ピット
20号ピット
1井
17号ピット
14号ピット
13号ピット
15号ピット
12号ピット
16号ピット
18ピ

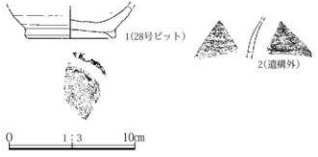

2
19号ピット
24号ピット
23号ピット
0
1:60
2m


3
29号ピット
28号ピット
2竪建


X=33720
3竪建
2竪建
1竪建
4溝
5溝
1溝
3溝
2溝
1土
2土
3土
1井
2
X=33710
Y=29910
Y=29900
0
1:200
10m

第14図　ピット１





2号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質シルト土。
3号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質シルト土。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　砂質土。
4号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　シルト混じり中粒砂土。
5号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
6号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。φ２mm、炭化物を含む。
7号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
8号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
9号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。下位の住居に重複。
10号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土、φ0.5～１mm、赤褐色片を含む。
11号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
12号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。境界はシャープ。
13号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。底部にφ70mm安山岩垂円礫を含む。
14号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　シルト質砂、黒みが強い。
15号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土、φ１mm褐色岩片を含む。
16号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
17号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
19号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　シルト質砂(上)、φ0.5～１mm褐色片を含む。
20号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
21号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
22号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
23号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
24号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
27号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
28号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。
29号ピット
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　砂質土。

第15図　ピット２・出土遺物

土師器小片が出土している。

５号ピット　Ｘ＝33710～33715・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長10cm、短軸長10cm、深さ18cm。底面最低標高83.01m。長軸方位Ｎ－44°－Ｗ。平面形は円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主とする。

６号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70410グリッド。長軸長10cm、短軸長８cm、深さ15cm。底面最低標高83.08m。長軸方位Ｎ-60°-Ｗ。平面形は円形。断面形は椀状。埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土を主体とする。土師器杯口縁小片が出土している。

７号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長13cm、短軸長12cm、深さ17cm。底面最低標高83.05m。長軸方位Ｎ-32°－Ｅ。平面形は円形。断面形は椀状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。土師器・須恵器杯小片が出土している。

８号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長14cm、短軸長13cm、深さ21cm。底面最低標高83.02m。長軸方位Ｎ-18°－Ｅ。平面形は隅丸方形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。

９号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70410グリッド。１号井戸を切る。長軸長13cm、短軸長12cm、深さ18cm。底面最低標高82.98m。長軸方位Ｎ-79°－Ｅ。平面形は円形。断面形は椀状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。

10号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長14cm、短軸長13cm、深さ18cm。底面最低標高83.05m。長軸方位Ｎ-37°-Ｗ。平面形は円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。赤褐色片を含む。土師器・須恵器杯小片が出土している。

11号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405～-70410グリッド。長軸長11cm、短軸長10cm、深さ19cm。底面最低標高82.98m。長軸方位Ｎ-33°－Ｅ。平面形は円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。

12号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長11cm、短軸長11cm、深さ22cm。底面最低標高82.93m。長軸方位Ｎ-39°-Ｗ。平面形はゆがんだ円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。土師器・須恵器杯小片が出土している。

13号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長13cm、短軸長10cm、深さ24cm。底面最低標高82.96m。長軸方位Ｎ－１°－Ｅ。平面形は南北に長い長円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。底面に安山岩の亜円礫がある。

14号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長13cm、短軸長11cm、深さ８/20cm。底面最低標高83.07m。長軸方位Ｎ－９°－Ｅ。平面形は南北に長い隅丸長方形。底面北部に径５cm、深さ12cmの円形の窪みがある。断面形は椀状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。

15号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長21cm、短軸長18cm、深さ20cm。底面最低標高82.95m。長軸方位Ｎ-45°－Ｅ。平面形は北東-南西に長い長円形。断面形は鍋状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。褐色岩片を含む。

16号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長10cm、短軸長８cm、深さ17cm。底面最低標高82.98m。長軸方位Ｎ-50°-Ｗ。平面形は北西-南東に長い偏円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色のシルト質土を主体とする。土師器甕口縁片が出土している。

17号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長13cm、短軸長12cm、深さ18cm。底面最低標高82.97m。長軸方位Ｎ-21°-Ｗ。平面形はゆがんだ円形。断面形はゆがんだＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。土師器小片が出土している。

19号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70400グリッド。長軸長10cm、短軸長９cm、深さ13cm。底面最低標高83.05m。長軸方位Ｎ-68°-Ｗ。平面形は円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色のシルト質土を主体とし、褐色片を含む。

20号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長11cm、短軸長９cm、深さ12cm。底面最低標高83.06m。長軸方位Ｎ-62°－Ｅ。平面形は東西に長い長円形。断面形は椀状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。須恵器杯小片が出土している。

21号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長13cm、短軸長11cm、深さ12cm。底面最低標高83.07m。長軸方位Ｎ-70°－Ｅ。平面形はゆがんだ円形。断面形は鍋状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。

22号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長11cm、短軸長９cm、深さ13cm。底面最低標高83.08m。長軸方位Ｎ-44°－Ｅ。平面形はゆがんだ円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。土師器小片が出土している。

23号ピット　Ｘ＝33705・Ｙ＝−70400グリッド。長軸長12cm、短軸長11cm、深さ11cm。底面最低標高83.02m。長軸方位N−62°−W。平面形はゆがんだ円形。断面形は鍋状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。

24号ピット　Ｘ＝33705・Ｙ＝−70400グリッド。長軸長11cm、短軸長８cm、深さ17cm。底面最低標高82.90m。長軸方位N−62°−W。平面形は北西−南東に長い偏円形。断面形は上部がやや開くＵ字状。埋土は黒褐色砂質土を主体とする。

25号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝−70405グリッド。長軸長９cm、短軸長８cm、深さ12cm。底面最低標高83.06m。長軸方位N−71°−E。平面形は東西にやや長い長円形。断面形は椀状。

26号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝−70405グリッド。２号溝を切る。長軸長12cm、短軸長12cm、深さ17cm。底面最低標高83.03m。長軸方位N−19°−E。平面形はゆがんだ円形。断面形は椀状。

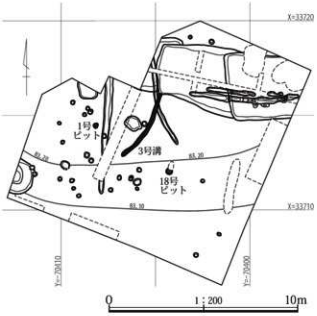
27号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝−70410グリッド。１号井戸と重複する。長軸長13cm、短軸長11cm、深さ17cm。底面最低標高83.01m。長軸方位N−76°−E。平面形は円形。断面形は鍋状に近いものと思われる。埋土は黒褐色の砂質土を主体とする。

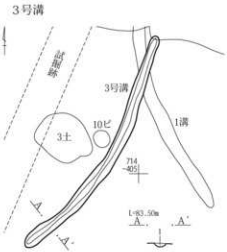
28号ピット　Ｘ＝33715・Ｙ＝−70400グリッド。長軸長13cm、短軸長12cm、深さ23cm。底面最低標高83.00m。長軸方位N−46°−W。平面形は円形。断面形はＵ字状。埋土は黒褐色の砂質土を主体とする。須恵器高台椀片・土師器小片が出土している。

29号ピット　Ｘ＝33715・Ｙ＝−70400グリッド。長軸長10cm、短軸長９cm、深さ22cm。底面最低標高82.99m。長軸方位N−80°−W。平面形は円形。断面形は底面にやや丸みを持つＶ字状。埋土は黒褐色の砂質土を主体とする。

第４節　中世以後の遺構と遺物

埋土にAs-Bを含む遺構を、中世以後の遺構とした。溝１条、ピット２基がある。溝は流水痕跡がなく、機能や性格を特定できない。ピットも相互に組み合うなどの構造を看取することはできない。





３号溝
１　灰褐色土(7.5YR6/2)　火山灰質砂質土。φ５～２mm。安山岩礫を含む。As-Bと思われる軽石粒を含む。１号溝を切る。掘乱に近い。

１号ピット
１　褐灰色土(7.5YR4/1)　中～細粒砂(土)。火山灰質。

18号ピット
１　褐灰色土(7.5YR4/1)　細粒砂(土)。火山灰混じり(As-Bか)。

0　1:60　2m

第16図　中世以後の遺構

第１項　溝

３号溝　Ｘ＝33710～33715・Ｙ＝-70405～-70400グリッド。確認長3.90m、上端幅21cm、確認面からの深さ８cm。断面形は椀状。埋土はAs-Bと思われる火山灰質土を含む灰褐色土を主体とする。安山岩礫を含む。確認面最高標高83.24m、最低標高83.21m、底面最高標高83.19m、最低標高83.16m。方位はＮ-32°-Ｅ。調査区中央北寄りにあって、北東-南西に延びる。北東端は２号竪穴建物を切るが、延長が把握できない。南西端は特定の境界施設なく完結する。南西端が高く、北東に下る。撹乱に近い。１号溝、２号竪穴建物を切る。埋土から土師器小片が出土している。

第２項　ピット

１号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70405グリッド。長軸長14cm、短軸長12cm、深さ16cm。底面最低標高83.03m。長軸方位Ｎ-40°-Ｗ。平面形はゆがんだ円形。断面形は椀状。埋土は火山灰質の褐灰色土を主体とする。

18号ピット　Ｘ＝33710・Ｙ＝-70400グリッド。長軸長17cm、短軸確認長14cm、深さ18cm。底面最低標高82.99m。長軸方位Ｎ-63°-Ｗ。平面形は円形を呈する。北東部を撹乱に切られる。断面形は鍋状。埋土は褐灰色土を主体とする。As-Bと思われる火山灰を含む。須恵器杯底部小片・土師器小片が出土している。

第３章　発掘調査成果の整理とまとめ

第１節　竪穴建物出土土器と年代観

今次調査は140㎡余という、小面積を対象とするものであったが、３棟の竪穴建物や井戸、溝、土坑、ピットが見つかり、緑釉陶器や灰釉陶器を含む遺物が出土した。竪穴建物はいずれも上位の削平が進んでいて残りが悪く、また地山の特性とも相まって形状も整ったものではないが、土師器・須恵器の杯・椀類が比較的多く残されていた。

１号竪穴建物の床面、掘方から出土している須恵器椀（３・４）は、口縁部がやや外反し、酸化焔焼成によることから９世紀第４四半期の年代観が与えられる。１の土師器杯も同様の年代観である。２の須恵器杯は口縁部が直線的に立ち上がることから前代のものが伝世したものかと思われる。

２号竪穴建物では比較的多くの土器が出土している。床面や掘方出土の土器を見ると、１～３の土師器杯では、１・２と３の間で口縁部から体部の形態に差があり、５・６の須恵器杯でも５の口縁部が外反するのに対し、６は直線的に立ち上がるなど、形態的な差が見られる。これについては、９世紀第３四半期から第４四半期にかけて存続した竪穴建物とみれば共伴に問題はない。また、覆土から出土した土器も共伴とみて齟齬はない。16の緑釉陶器は、内面に施されている陰刻花文の表現がやや簡素化しており、９世紀後半の年代観が与えられる。これも共伴するものである。

３号竪穴建物の床面や掘方から出土している土師器杯は、底部から体部への立ち上がりに丸みをもち、底部と体部の境が不明瞭な形態であることや、13の土師器甕が「コの字状口縁」を呈していることから、９世紀第３四半期の年代観が与えられる。

１号～３号竪穴建物は重複関係にあり、その新旧関係は３号竪穴建物→２号竪穴建物→１号竪穴建物の順との調査所見である。その存続期間は土器から見ると半世紀であり、３号竪穴建物が９世紀第３四半期、１号竪穴建物が９世紀第４四半期、２号竪穴建物がその中間に比定できる。そのため３号竪穴建物10の須恵器椀、２号竪穴建物３の土師器杯など、次段階の可能性がある個体が混入するが、共伴関係に大きな齟齬は生じていない。

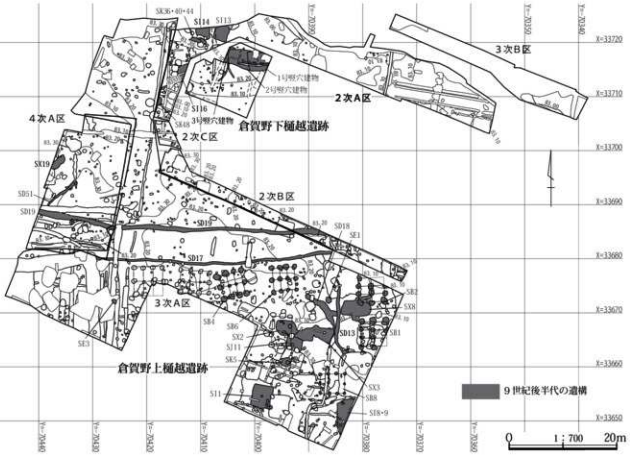
なお、３棟ともに煮沸形態の土器がごく少ないことも注意される。３号竪穴建物では炭化物と灰が認められていて、東壁中央近くに竈があったものと想定されるが、この時期の竪穴建物において竈が設けられることの多い東壁を壊して、順次建て替えが為されていることもあってか、１号、２号竪穴建物では痕跡すら認められない。

第２節　周辺の遺構から見た竪穴建物のありかた

本遺跡の北から西、南にかけて、逆コ字状に囲むように倉賀野上樋越遺跡の調査区がある。ここでは、８世紀後半から10世紀にかけての遺構、遺物が確認されている。第17図は高崎市教育委員会に提供いただいた倉賀野上樋越遺跡報告書掲載第４図に本遺跡の遺構図を付記し、９世紀後半の遺構を網掛けで示したものである。

中央南寄りに、道路の側溝と見られる並行する溝２条が東西方向に走る。この道の始期は判然としないが、10世紀前半代の所産とされる倉賀野上樋越遺跡SI12が道の北側側溝を切っており、このころには道としての機能を停止していたものと思われる。道の南側に掘立柱建物群があり、SB４～７が道沿いに並ぶ部分は、他より道幅が広くなっていて、道と掘立柱建物が関連をもつものであることが理解される。また、掘立柱建物群内を区画するものと思われる溝も確認されている。掘立柱建物群は８世紀末から10世紀にわたるものとされる。道の南側にはほぼ同時期の竪穴建物もあるが、掘立柱建物のさらに南に位置していて、重複することはない。掘立柱建物と竪穴建物が計画的に配置されたものであろう。掘立柱建物群内の土坑や不明遺構からは奈良三彩蓋片、緑釉陶器皿片や碁石などが出土していて、郡家、郷家の関連施設や、地方有力者の居宅などの可能性が想定されている。

道の北では、８世紀後半のSI17および９世紀後半のSI13・14・16が発掘されている。SI15は竪穴建物ではない可能性もあるとされるが、９世紀代の所産である。本遺跡の竪穴建物もこの竪穴建物群に含まれるものである。道との間には20mほどの空白域があって、この間にある竪穴建物は10世紀に下る。特異とも思える重複の様相や煮沸形態時の欠落などを含め、狭い範囲の発掘結果であるので確度は低いが、何らかの規制に基づいて、竪穴建物の位置や性格が規定されている可能性もあろう。



第17図　倉賀野下樋越遺跡と周辺の９世紀後半代の発掘調査遺構

遺構一覧表

平安時代の遺構

竪穴建物

遺構名	位置	確認規模等(長軸長m×短軸長m×最大壁高cm・面積㎡・長軸方位) < >内は確認値	遺物等	挿図	PL.
1号竪穴建物	X＝33710～33715・Y＝-70400～-70395	<4.55>×3.57×15・13.01・N-87°-W	土師器杯/須恵器杯・甕・短頸壺	4・5	2・3
2号竪穴建物	X＝33710～33715・Y＝-70400	<4.46>×2.64～3.53×17・13.48・N-80°-W	土師器杯・甕/須恵器杯・椀・壺・甕/緑釉陶器椀/土錘	4・6～8	2・4～6
3号竪穴建物	X＝33715・Y＝-70405～-70400	<2.89>×2.42×18・5.1・N-6°-E(掘方東壁)	土師器杯・甕/須恵器杯/灰釉陶器椀	4・9・10	2・6・7

溝

遺構名	位置	確認規模等(確認長m×最大幅m×深さcm・方位) < >内は確認値	遺物等	挿図	PL.
1号溝	X＝33710～33715・Y＝-70405～-70400	<4.81>×0.23×9・N-16°-W	須恵器杯	11	7・8
2号溝	X＝33710～33715・Y＝-70405	<6.24>×0.41×12・N-4°-E	土師器小片	11	8
4号溝	X＝33715・Y＝-70400～-70395	<4.06>×0.24×14・N-86°-W	須恵器甕	11	8
5号溝	X＝33715・Y＝-70400～-70395	<5.77>×0.34×21・N-89°-W	須恵器杯	11	8

井戸

遺構名	位置	確認規模等(長軸長m×短軸長m×深さcm・方位) < >内は確認値	遺物等	挿図	PL.
1号井戸	X＝33710・Y＝-70410	0.94×<0.51>×120・N-18°-E	土師器杯/須恵器杯・羽釜	12	8

土坑

遺構名	位置	確認規模等(長軸長m×短軸長m×深さcm・方位) < >内は確認値	遺物等	挿図	PL.
1号土坑	X＝3715・Y＝-70405	<0.46>×0.51×29・N-2°-W	土師器杯	13	9
2号土坑	X＝3710・Y＝-70405	0.24×0.21×18・N-57°-W	土師器小片	13	9
3号土坑	X＝3710・Y＝-70405	0.47×0.37×26・N-71°-W	石片	13	9

ピット

遺構名	位置	確認規模等(長軸長m×短軸長m×深さcm・方位)	遺物等	挿図	PL.
2号ピット	X＝3715・Y＝-70405	14×11×10・26・N-36°-E	土師器小片	14・15	9
3号ピット	X＝3715・Y＝-70405	11×10×14・N-6°-E		14・15	9
4号ピット	X＝3715・Y＝-70405	12×11×22・N-45°-E	土師器・須恵器小片	14・15	9
5号ピット	X＝3710～33715・Y＝-70405	10×10×18・N-44°-W		14・15	9
6号ピット	X＝3710・Y＝-70410	10×8×15・N-60°-W	土師器小片	14・15	9
7号ピット	X＝3710・Y＝-70405	13×12×17・N-32°-E	土師器・須恵器小片	14・15	10
8号ピット	X＝3710・Y＝-70405	14×13×21・N-18°-E		14・15	10
9号ピット	X＝3710・Y＝-70410	13×12×18・N-79°-E		14・15	10
10号ピット	X＝3710・Y＝-70405	14×13×18・N-37°-W	土師器・須恵器小片	14・15	10
11号ピット	X＝3710・Y＝-70405～-70410	11×10×19・N-33°-E		14・15	10
12号ピット	X＝3710・Y＝-70405	11×11×22・N-39°-W	土師器・須恵器小片	14・15	10
13号ピット	X＝3710・Y＝-70405	13×10×24・N-1°-E		14・15	10
14号ピット	X＝3710・Y＝-70405	13×11×8・20・N-9°-E		14・15	10・11
15号ピット	X＝3710・Y＝-70405	21×18×20・N-45°-E		14・15	11
16号ピット	X＝3710・Y＝-70405	10×8×17・N-50°-W	土師器小片	14・15	11
17号ピット	X＝3710・Y＝-70405	13×12×18・N-21°-W	土師器小片	14・15	11
19号ピット	X＝3710・Y＝-70400	10×9×13・N-68°-W		14・15	11
20号ピット	X＝3710・Y＝-70405	11×9×12・N-62°-E	須恵器小片	14・15	11
21号ピット	X＝3710・Y＝-70405	13×11×12・N-70°-E		14・15	11
22号ピット	X＝3710・Y＝-70405	11×9×13・N-44°-E	土師器小片	14・15	11
23号ピット	X＝33705・Y＝-70400	12×11×11・N-62°-W		14・15	11・12
24号ピット	X＝33705・Y＝-70400	11×8×17・N-62°-W		14・15	12
25号ピット	X＝3710・Y＝-70405	9×8×12・N-71°-E		14・15	12
26号ピット	X＝3710・Y＝-70405	12×12×17・N-19°-E		14・15	12
27号ピット	X＝3710・Y＝-70410	13×11×17・N-76°-E		14・15	12
28号ピット	X＝3715・Y＝-70400	13×12×23・N-46°-W	須恵器椀/土師器小片	14・15	12
29号ピット	X＝3715・Y＝-70400	10×9×22・N-80°-W		14・15	12

中世以後の遺構

溝

遺構名	位置	確認規模等(確認長m×最大幅m×深さcm・方位) < >内は確認値	遺物等	挿図	PL.
3号溝	X＝3710～33715・Y＝-70405～-70400	3.90・0.21・8.00・N-32°-E	土師器小片	16	13

ピット

遺構名	位置	確認規模等(長軸長m×短軸長m×深さcm・方位) < >内は確認値	遺物等	挿図	PL.
1号ピット	X＝3710・Y＝-70405	14×12×16・N-40°-W		16	13
18号ピット	X＝3710・Y＝-70400	17×<14>×18・N-63°-W	土師器・須恵器小片	16	13

1号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第5図 PL.3-5	1	土師器 杯	竪穴掘方中央近く 口縁部～底部片	口	11.8	高	3.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
				底	8.0					
第5図 PL.3-5	2	須恵器 杯	覆土 口縁部～底部片	口	11.4	高	3.7	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
				底	6.8					
第5図 PL.3-5	3	須恵器 椀	掘方 口縁部～体部片	口	14.8			細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第5図 PL.3-5	4	須恵器 無台椀	-2.0 底部～体部	底	5.0			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5図 PL.3-5	5	須恵器 無台椀	-2.2 底部～体部片	底	6.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第5図 PL.3-5	6	須恵器 短頸壺	-4.6 頸部～胴部上位片	頸	11.2			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。内面は胴部に回転ヘラナデ。	
第5図 PL.3-5	7	須恵器 甕	掘方 口縁部片	口	30.0			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、回転は右回りか。口唇部下に断面三角形の凸帯を作る。	

2号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第6図 PL.5	1	土師器 杯	掘方 1/5	口	11.6	高	3.1	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
				底	9.6					
第6図 PL.5	2	土師器 杯	掘方 1/2	口	11.8	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
				底	9.2					
第6図 PL.5	3	土師器 杯	掘方 1/4	口	11.8	高	3.1	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
				底	7.8					
第6図 PL.5	4	土師器 鉢	床面 口縁部～体部上半片					細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面は体部にヘラナデ。	
第6図 PL.5	5	須恵器 杯	竪穴掘方北西部 1/3	口	11.8	高	3.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内面の底部から体部への移行箇所の屈曲は明瞭。	
				底	7.0					
第6図 PL.5	6	須恵器 杯	竪穴掘方中央北寄り 1/4	口	12.2	高	3.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内面の底部から体部への移行箇所の屈曲は明瞭。	
				底	7.0					
第6図 PL.5	7	須恵器 無台椀	竪穴掘方中央 1/4	口	13.4	高	3.8	細砂粒/還元焔/軟質/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
				底	6.2					
第7図 PL.5	8	須恵器 無台椀	床面 底部～体部片	底	5.6			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第7図 PL.5	9	須恵器 無台椀	+10 底部～体部	底	5.8			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第7図 PL.5	10	須恵器 無台椀	掘方 底部	底	7.0			細砂粒/酸化焔/明赤褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内面の底部から体部への移行箇所の屈曲は明瞭。	
第7図 PL.5	11	須恵器 有台椀	床面 1/3	口	12.8	台高	6.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、体部下半にヘラナデ、高台は貼付。内面底部に粘土貼付痕がある。	
				底	7.2		6.1			
第7図 PL.5	12	須恵器 有台椀	覆土 1/3	口	15.8	台高	6.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、器面磨滅のため痕跡不鮮明。高台は貼付。	
				底	6.7		7.0			
第7図 PL.5	13	須恵器 有台椀	掘方 底部～体部	底	6.5			細砂粒・粗砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。内面底部に重ね焼き痕が残る。	
				台	6.0					
第7図 PL.5	14	須恵器 有台椀	覆土 底部	底	6.8			細砂粒/還元焔・燻/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りか器面磨滅のため痕跡不鮮明。高台は貼付。外面は燻焼成。	
				台	6.2					
第7図 PL.5	15	須恵器 有台椀	床面 底部～体部片	底	7.1			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。内面底部に重ね焼き痕が残る。	
				台	6.9					
第7図 PL.5	16	緑釉陶器 椀	床面 底部～体部片	底	9.0			微砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、体部はヘラミガキか、高台は貼付。内面底部に陰刻花文が施文。釉調は淡緑色を呈す。	東海産、9世紀後半。
				台	8.6					
第7図 PL.5	17	土師器 甕	床面 底部～胴部下位片	底	4.0			細砂粒/良好/明赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部に本目が残るヘラナデ。	
第8図 PL.6-1	18	須恵器 甕	床面 口縁部下位～胴部上位片	頸	16.0			細砂粒/還元焔/褐灰	胴部の成形不明、口縁部はロクロ整形。胴部は内外面ともヘラナデ。	
第8図 PL.6-1	19	須恵器 壺	+5 底部～胴部下位片	底	16.0			細砂粒/還元焔/褐灰	成形方法不明。外面は底部にヘラ削り、胴部に回転ヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第8図 PL.6-1	20	土製品 土錘	床面 完形	長	4.1	孔重	0.4	細砂粒/良好/黄灰	外面はナデ、両端部とも面を作らない。	
				径	1.1		4.4			
第8図 PL.6-1	21	土製品 土錘	床面 1/2	長	2.7	孔重	0.5	細砂粒/良好/橙	外面はナデ、残存片の端部は面を作らない。	
				径	1.5		5.3			

3号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10図 PL.6-6	1	土師器 杯	掘方 1/5	口	10.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
				底	8.8					

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10図 PL.6-6	2	土師器 杯	覆土 1/4	口	11.8	高	3.5		砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
				底	8.4					口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第10図 PL.6-6	3	土師器 杯	-11 1/3	口	12.0				砂粒/良好/にぶい橙		
				底	9.4						
第10図 PL.6-6	4	土師器 杯	-13 3/4	口	12.5	高	3.4		砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
				底	8.6						
第10図 PL.7-1	5	土師器 杯	+9 1/4	口	12.6	高	3.4		砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削りか、器面磨滅のため単位不明。	
				底	10.6						
第10図 PL.7-1	6	土師器 杯	-9 1/4	口	12.6				砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
				底	8.6						
第10図 PL.7-1	7	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口	14.4				砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	
				底	10.4						
第10図 PL.7-1	8	須恵器 杯	覆土 1/3	口	11.6	高	3.6		砂粒/良/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
				底	7.2						
第10図 PL.7-1	9	須恵器 無台椀	+14 1/4	口	13.0	高	5.0		砂粒/微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
				底	6.0						
第10図 PL.7-1	10	須恵器 杯	+14 口縁部～体部片	口	13.2				砂粒/良/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は外反。	
第10図 PL.7-1	11	須恵器 無台椀	+19 底部～体部	底	6.8				砂粒/微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第10図 PL.7-1	12	土師器 甕	覆土 口縁部～頸胴部上位片	口	18.4				砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第10図 PL.7-1	13	須恵器 甕	+14 口縁部片	口	25.6				砂粒/微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は上方に引き上げられ、口唇部下に断面が細長い三角形の凸帯を作る。内面は回転ヘラナデ。	
PL.7-1	14	灰釉陶器 瓶	覆土 胴部小片						微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。	東濃産、10C.代か。
第10図 PL.7-1	15	礫石器 台石	施方 完形	長	24.2	厚	9.0		粗粒輝石安山岩	厚みのある楕円礫を素材、表面は平坦面。磨耗痕・敲打痕は識別できないが、台石に利用された可能性がある。	
				幅	16.5	重	5588.4				

溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11図 PL.8-5	1	須恵器 椀	口縁部～体部片	口	13.8				砂粒/良/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第11図 PL.8-5	2	須恵器 無台椀	底部～体部片	底	6.0				砂粒/良/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整か、底部は器面磨滅のため詳細不鮮明。	
第11図 PL.8-5	3	須恵器 甕	胴部小片						砂粒/微/還元焔/灰	胴部は叩き締め成形。外面は斜めのヘラナデか、間隔を開けて凹線を巡らす。内面はアテ具痕をナデ消している。	
第11図 PL.8-5	4	須恵器 杯	口縁部～底部片	口	12.2	高	3.7		砂粒/良/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
				底	6.4						

井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12図 PL.8-8	1	須恵器 杯	底部～体部片	底	8.0				砂粒/微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲と体部下位に回転ヘラ削り。	
第12図 PL.8-8	2	須恵器 杯	底部～体部片	底	5.8				砂粒/微/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し技法は器面磨滅のため不明。	
第12図 PL.8-8	3	須恵器 羽釜	鍔片						砂粒/良/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、鍔は貼付。	

土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.9-3	1	土師器 杯	1号土坑 口縁部～底部片	口	11.6				砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
				底	10.4						

ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15図 PL.12-10	1	須恵器 有台椀	28号ピット 底部～体部片	底	7.0				砂粒/微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
				台	6.8						

遺構外出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15図 PL.12-13	2	灰釉陶器 瓶	口縁部片						微砂粒/還元焔/灰白	長頸瓶口縁部。ロクロ整形、回転は右回り。内外面に施釉か。	

写 真 図 版

調査区遠景　南東から

1　調査区遠景　北西から

2　調査区遠景　西から

3　調査区全景　上が北

4　1号トレンチ断面　西から

5　2号トレンチ断面　北から

1　1号～3号竪穴建物　上が北

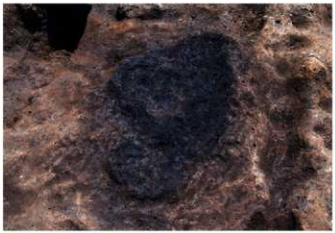
2　1号竪穴建物調査風景　東から

3　1号竪穴建物　西から

4　1号竪穴建物土層断面Aライン　南から

5　1号竪穴建物土層断面Bライン　西から

1　1号竪穴建物掘方　西から



2　1号竪穴建物掘方底面の炭化物　西から

3　1号竪穴建物掘方土層断面Aライン　南から

4　1号竪穴建物掘方土層断面Bライン　西から

5　1号竪穴建物出土遺物

1　2号竪穴建物　西から

2　2号・3号竪穴建物土層断面Aライン　南から

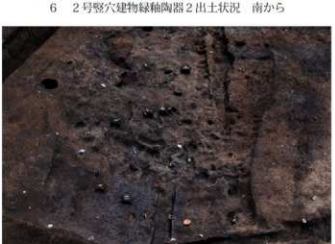
3　2号・3号竪穴建物土層断面Aライン西端部　南から

4　2号竪穴建物土層断面Bライン　西から

5　2号竪穴建物緑釉陶器1出土状況　南から

6　2号竪穴建物緑釉陶器2出土状況　南から

7　2号竪穴建物土錘出土状況　南から



8　2号竪穴建物掘方　西から

1　2号竪穴建物出土遺物　1

1　2号竪穴建物出土遺物　2

2　3号竪穴建物　東から

3　3号竪穴建物土層断面Bライン　東から

4　3号竪穴建物遺物出土状況　東から

5　3号竪穴建物掘方　西から

6　3号竪穴建物出土遺物　1

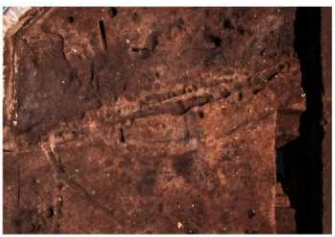
1　3号竪穴建物出土遺物　2

2　1号溝　南東から

3　1号溝土層断面　南から

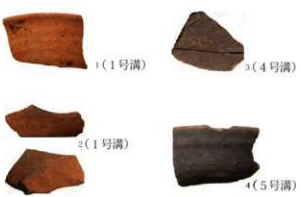
1　2号溝　南から

2　2号溝土層断面　南から



3　4号・5号溝　上が北

4　4号・5号溝　東から



5　溝出土遺物

6　1号井戸　東から

7　1号井戸土層断面　東から

8　1号井戸出土遺物

1　1号土坑　南から

2　1号土坑土層断面　南から

3　1号土坑出土遺物

4　2号土坑　南から

5　2号土坑土層断面　南西から

6　3号土坑　南から

7　3号土坑土層断面　南から

8　2号・3号ピット　南から

9　2号・3号ピット断面　南から

10　4号ピット　南から

11　4号ピット断面　南から

12　5号ピット　南から

13　5号ピット断面　南から

14　6号ピット　南から

15　6号ピット断面　南から

1　7号ピット　南から

2　7号ピット断面　南から

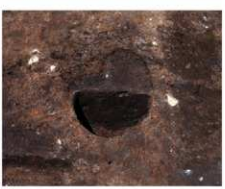
3　8号ピット　南から

4　8号ピット断面　南から

5　9号ピット　南から

6　9号ピット断面　南東から

7　10号ピット　南から


8　10号ピット断面　南から

9　11号ピット　南から

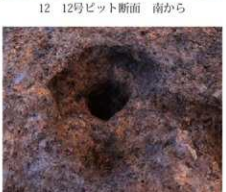
10　11号ピット断面　南から

11　12号ピット　南から

12　12号ピット断面　南から

13　13号ピット　南から

14　13号ピット断面　南から


15　14号ピット　南から

1　15号ピット　南から

2　14号・15号ピット断面　南から

3　16号ピット　南から

4　16号ピット断面　南から

5　17号ピット　南から

6　17号ピット断面　南から

7　19号ピット　南から

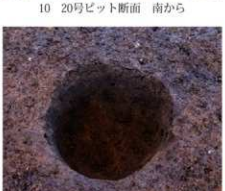
8　19号ピット断面　南から

9　20号ピット　南から

10　20号ピット断面　南から

11　21号ピット　南から

12　21号ピット断面　南から


13　22号ピット　南から

14　22号ピット断面　南から

15　23号ピット　南から

1　23号ピット断面　南から

2　24号ピット　南から

3　24号ピット断面　南から

4　25号ピット　南から

5　26号ピット　南から

6　27号ピット　南から

7　27号ピット断面　南から

8　28号ピット　南から

9　28号ピット断面　南から

10　28号ピット出土遺物

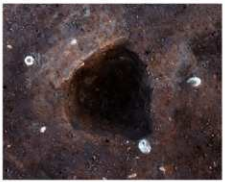
11　29号ピット　南から

12　29号ピット断面　南から

13　遺構外出土遺物

1　3号溝　南西から

2　3号溝断面　南西から



3　1号ピット　南から

4　1号ピット断面　南から

5　18号ピット　南から

6　18号ピット断面　南から

報告書抄録

書名ふりがな	くらがのしもひごしいせき
書　名	倉賀野下樋越遺跡
副 書 名	倉賀野交番建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	744集
編著者名	洞口正史・神谷佳明
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20240814
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	くらがのしもひごしいせき
遺 跡 名	倉賀野下樋越遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしくらがのまち
遺跡所在地	群馬県高崎市倉賀野町
市町村コード	10202
遺跡番号	03369
北緯(世界測地系)	36°1804
東経(世界測地系)	139°0257
調査期間	20230501－20230531
調査面積	141.14㎡
調査原因	その他建物(倉賀野交番)
種　別	集落/散布地
主な時代	平安/中世/近世
遺跡概要	集落－平安－竪穴建物３＋溝５＋井戸１＋土坑３＋ピット29＋土師器＋須恵器＋緑釉陶器＋灰釉陶器/中・近世－溝１＋ピット２
特記事項	２号竪穴建物からは陰刻花紋のある緑釉陶器碗片が出土している。南の倉賀野上樋越遺跡では、道路状遺構や公的施設と思われる掘立柱建物群が調査されており、同じく陰刻花紋のある緑釉陶器椀や奈良三彩も出土しており、何らかの関係を持つものであろう。
要　約	道路状遺構や公的施設と思われる掘立柱建物群が調査された、倉賀野上樋越遺跡の北30mほどの位置にある。古代の溝や土坑、ピットおよび、９世紀後半の竪穴建物３棟が、直列するように重複して認められた。残りの悪い竪穴建物で、外形も乱れ、竈も確認されない。このためか、煮沸形態の土器は、破片も含めてごく少数の出土にとどまり、土師器、須恵器の杯椀類が多く出土している。２号竪穴建物からは陰刻花紋のある緑釉陶器碗片が出土している。倉賀野上樋越遺跡でも同じく陰刻花紋を持つ緑釉片や、奈良三彩片が出土しており、何らかの関係を持つものと思われる。ほかに10世紀代と思われる井戸や中近世の溝、ピットを調査した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第744集

倉賀野下樋越遺跡

倉賀野交番建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和６(2024)年８月９日　印刷
令和６(2024)年８月14日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／杉浦印刷株式会社